

写真
(授業の様子)

No.2 学力向上対策推進事業
(個に応じた学習の充実)

子どもたちに

「できた」「わかった」

の喜びを！

確かな学力の定着

足立区教育委員会
教育指導部 学力定着推進課

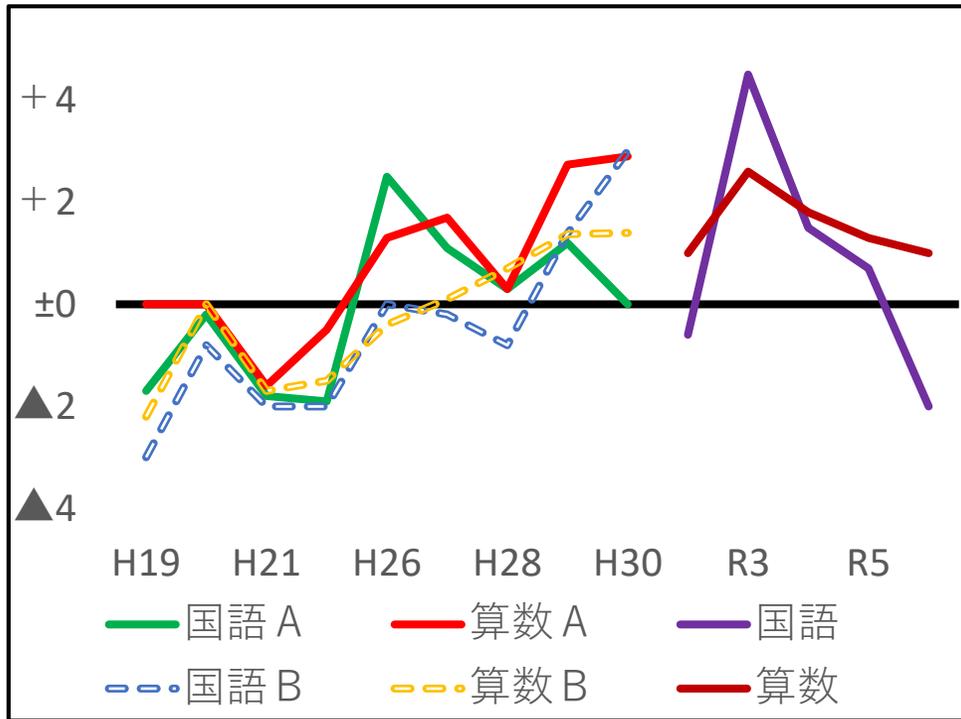


足立の子どもたちの学力（全国値との比較）

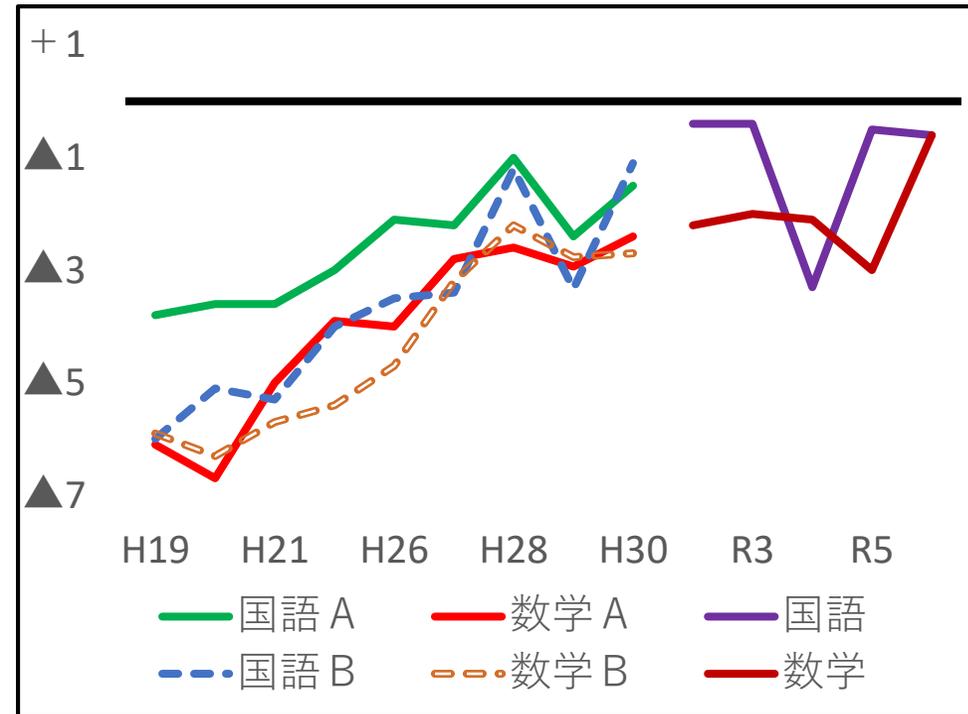
全国調査においては、小学校は直近3年で、低下が見られるが
長期では、小学校・中学校ともに上昇の傾向がみられる

全国学力・学習状況調査における平均正答率の足立区と全国値との差〔pt〕

小学校



中学校



※ 全国調査では、平成19年度から平成30年度まで、主として「知識」に関するA問題と主として「活用」に関するB問題に分けて出題。平成31(令和元)年度以降は、現在の形式(知識と活用を一体的に問う問題形式)で実施している。

※ 平成22・平成24年度は 抽出校のみ実施。平成23年度は震災のため中止。令和2年度はコロナ禍のため中止。

成果指標（最終成果）の推移【算数・数学】

令和6年度目標値に対して、
小学校は2.0pt、中学校は1.6pt届かなかったものの、
中学校では、令和6年度に大きく差を詰めた

全国学力・学習状況調査における平均正答率の足立区と全国値との差〔pt〕
(算数・数学)

小学校

	足立区	国	差(pt)
令和6年度 目標値			+3.0
令和6年度	64.4	63.4	+1.0
令和5年度	63.8	62.5	+1.3

差2.0

中学校

	足立区	国	差(pt)
令和6年度 目標値			+1.0
令和6年度	51.9	52.5	▲0.6
令和5年度	48.0	51.0	▲3.0

差1.6

『2本柱』を中心とした施策体系

子どもたちの可能性を広げ、夢や希望を実現し、生きる力を！

重点
プロジェクト
評価対象

確かな学力の定着

取組みの柱①

児童・生徒の
個に応じた学習の充実

取組みの柱②

教員の
授業力の向上

学力調査等
データの分析・活用 + ICTの活用

M I M (多層指導モデル) ①【活動-1】【直接成果-1】

Multi-layer Instruction Model

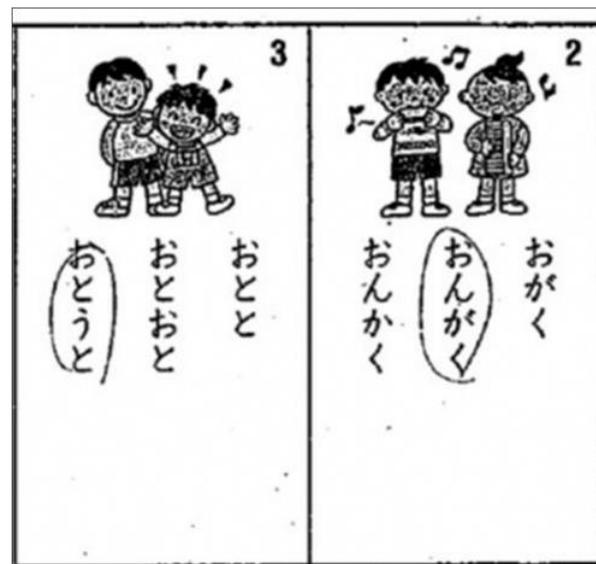
小学校
第一学年

学習の基礎となる「流暢な読み」を目指し、小学校第1学年の全児童を対象に、各学級の学習や活動において、異なる学力層の子どもに対応した支援を行う指導モデル

写真
(M I Mの指導の様子)

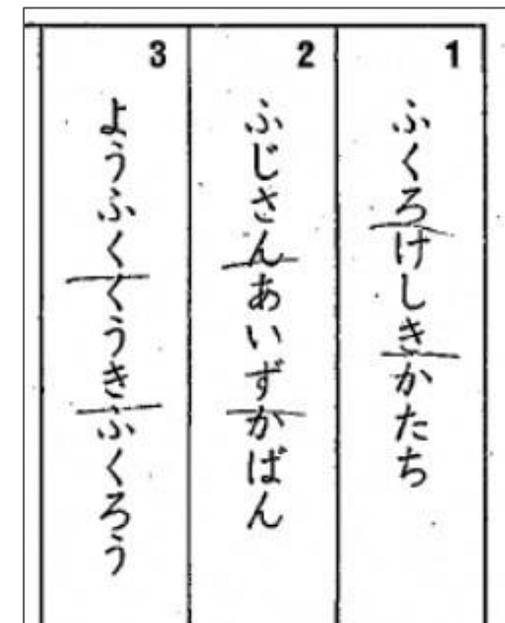
【問題例①】

正しい読みを選択する問題



【問題例②】

単語ごとに正しい位置で区切る問題



MIM (多層指導モデル) ②【活動-1】【直接成果-1】

Multi-layer Instruction Model

指標		年度	R4	R5	R6	達成状況
活動 1	MIM-PM (※) の実施回数 ※つまずきが顕在化する子どもを、つまずく前の段階で把握・指導するためのアセスメント (データに基づく評価)	目標	680	670	670	達成
		実績	679	670	670	
		達成率	99.9%	100%	100%	
直接成果 1	年度末のMIM3rd児童 (※) の割合 ※MIM-PMにより課題レベルを3段階で分類した際に、特殊音節の読みに課題が最も多い児童	目標	8.0%	8.0%	8.0%	遅れている
		実績	12.1%	13.9%	15.0%	
		達成率	66.1%	57.6%	53.3%	

● 指標分析

活動指標は100%達成。直接成果は前年度を下回った。
3rdの児童の減少率でみると、
令和4年度：71.6% 令和5年度：70.3% 令和6年度：69.5% であり、
概ね7割程度で推移している。

● 課題

担当教員に事業の重要性を理解してもらう。

● 今後の予定 (短期)

研修の継続や出前授業、好事例の横展開に重点を置く。

● 今後の方向性 (中・長期)

令和5年度から導入したデジタル版も含めた効果的な活用事例を収集し、横展開を図る。

そだち指導①【活動-2】 【直接成果-2】

小学校
第2学年～
第4学年

指導経験豊富なそだち指導員が小学2～4年生を対象に、別教室で個別指導（国語・算数）を行い、児童個々のつまずきを早期に解消する。

写真
(そだち指導の様子)

■ 卒業までの4ステップ

児童の選出

学力ポートフォリオを活用して対象児童を選定し、校内委員会で決定します。

指導計画の作成

担任とそだち指導員が連携して作成します。

個別指導

通常授業から抜け出るかたちで個別指導を利用します。

卒業

校内委員会で卒業判定をおこないます。

そだち指導②【活動-2】 【直接成果-2】

指標		年度	R4	R5	R6	達成状況
活動2	そだち指導の充足率	目標	100%	100%	100%	達成
		実績	101%	100%	100%	
		達成率	101%	100%	100%	
直接成果2	そだち指導を受けた児童からの評価 ※そだち指導終了時のアンケートで「大変良かった」「良かった」と回答した児童の割合	目標	100%	100%	100%	順調
		実績	99.7%	99.7%	99.7%	
		達成率	99.7%	99.7%	99.7%	

- 指標分析** 必要な指導時間が確保され、計画どおりに実施している。
アンケート結果は高い満足度を維持している。
- 課題** 別教室での指導となるため、学級担任との密な連携が欠かせない。
- 今後の予定（短期）** つまずきの解消と通常の学習内容の定着との両立を目指す。
- 今後の方向性（中・長期）** 系統性を持たせた指導方法の確立、連続性のある学習指導モデルを構築する。

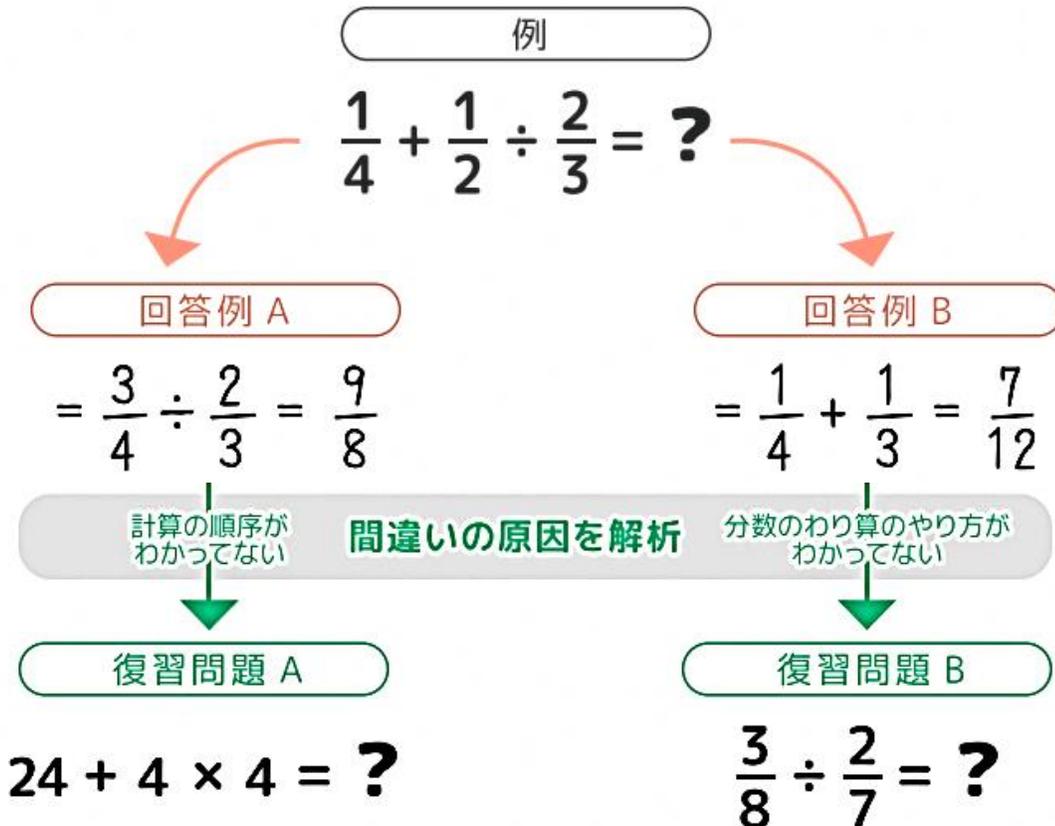
AIドリルの活用①【活動-3】【直接成果-3】

小学校
全学年

中学校
全学年

児童・生徒一人ひとりのつまずきを解析し、個に応じて出題する学習教材
(国語、算数・数学、英語、理科、社会の5教科)

■ 一人ひとりの誤答に応じた出題



■ 様々な場面で効果的に活用

活用場面 (例)	授業	放課後補習
	朝学習	家庭学習

個別最適な学びを提供し
基礎学力の確実な定着へ

A I ドリルの活用②【活動-3】【直接成果-3】

指標		年度	R4	R5	R6	達成状況
活動3	A I ドリルで学習状況を把握し、児童・生徒のつまづきに応じて、必要な手立てを講じている教員の割合（令和5年度指標変更）	目標	—	70.0%	70.0%	達成
		実績	—	69.5%	70.8%	
		達成率	—	99.3%	101.1%	
直接成果3	算数・数学の学習でA I ドリルを活用し、苦手な問題を解けるようになったと回答した児童・生徒の割合	目標	70.0%	75.0%	80.0%	やや順調
		実績	—	69.5%	71.7%	
		達成率	—	92.7%	89.6%	

- 指標分析** 活動指標は目標を達成した。
 直接成果は目標値を下回ったが、つまづきの解消へのつながりが伺える。
- 課題** 学校・教員間の活用格差の解消、低活用校へのアプローチ。
- 今後の予定（短期）** 研修や学校への訪問サポートを通じた活用の底上げ、好事例の横展開を図る。
- 今後の方向性（中・長期）** 場面ごとの効果的な活用方法を蓄積・展開し、学習教材の一つとして、効果的な活用を促し、定着を図っていく。

昨年度の反映結果に対する取組（AIドリルの活用）

AIドリルの効果的な活用方法の周知【令和7年3月実施済】



児童・生徒が問題を誤答をした際に解説を読み飛ばして進めるケースや、解答に行き詰まった際にヒント機能を活用せずに当てずっぽうで解答するケースが見受けられるため、AIドリルのこれらの機能を活用した効果的な正しい使い方を解説した動画を作成、区のyoutubeへ掲載し、保護者、児童・生徒へ周知を行いました。

【動画URL】

<https://www.youtube.com/watch?v=eEMK4lIZ6Yc>

【動画QRコード】



AIドリル導入による効果検証【令和7年度実施予定】

教材提供事業者と連携をして、特定の小・中学校において、事前・事後テストの間にAIドリルの問題集に取組み、学力向上との相関を測る効果検証を実施する予定です。

中間指標・成果（まとめ）

指標		年度	R4	R5	R6	達成状況
中間指標1	「学校の授業はわかる」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合	目標	85.0%	85.0%	85.0%	やや順調
		実績	80.7%	80.5%	79.6%	
		達成率	94.9%	94.7%	93.6%	
中間指標2	「学校の授業は楽しい」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合	目標	85.0%	85.0%	85.0%	やや順調
		実績	84.1%	83.3%	83.3%	
		達成率	98.9%	98.0%	98.0%	
中間指標3	「勉強は好きだ」に肯定的な回答をした児童・生徒の割合	目標	60.0%	60.0%	60.0%	やや順調
		実績	56.5%	54.9%	54.0%	
		達成率	94.2%	91.5%	90.0%	

『2本柱』を中心とした施策体系

子どもたちの可能性を広げ、夢や希望を実現し、生きる力を！

確かな学力の定着

取組みの柱①

児童・生徒の
個に応じた学習の充実

取組みの柱②

教員の
授業力の向上

こちらの事業
の一部を
紹介します！

学力調査等
データの分析・活用

+

ICTの活用

教員の授業力向上（事業紹介）

教科指導専門員による訪問指導

写真
(教科指導専門員による
指導の様子)

授業の改善・充実のため、
教員経験豊富で教科指導力に
秀でた「教科指導専門員」が
各学校を巡回し、若手教員を
中心に指導しています。

秋田県大仙市への教員派遣事業

写真
(授業の様子)

効果的な授業方法を
体験・習得するために、
教員を派遣し、授業改
善を図ると共に、成果
を報告会や公開授業を
通して幅広く周知して
います。

小中連携教育事業



小学校・中学校合同での
授業研究や教員交流
などにより、9年間を
見通した授業づくりや
学びの連続性・系統性
を意識した教育活動な
どを研究・実践してい
ます。



派遣事業で教員が得た学びや
実践した内容を元に、ICT活用
の視点などを加えて作成した
リーフレット「足立スタン
ダード虎の巻」を全教員へ配
付し、「子どもたちの思いに
沿った『安心感』のある授
業」づくりについて共有しま
した。

子どもたちに

「できた」「わかった」の喜びを！



Thank you for your attention.

令和7年度区民評価ヒアリング

No.4

「不登校児童・生徒に対する支援事業」

教育指導部

こども支援センターげんき

教育相談課

不登校施策推進担当課 ※R7新設



国

不登校児童生徒への支援においては、学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるように支援を行う

○不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）
（文部科学省 令和元年10月）

不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える

○誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）（文部科学省 令和5年3月）

都

- 1 不登校の未然防止に力を入れていく
- 2 どこにもつながっていない不登校児童・生徒の数を0人にする

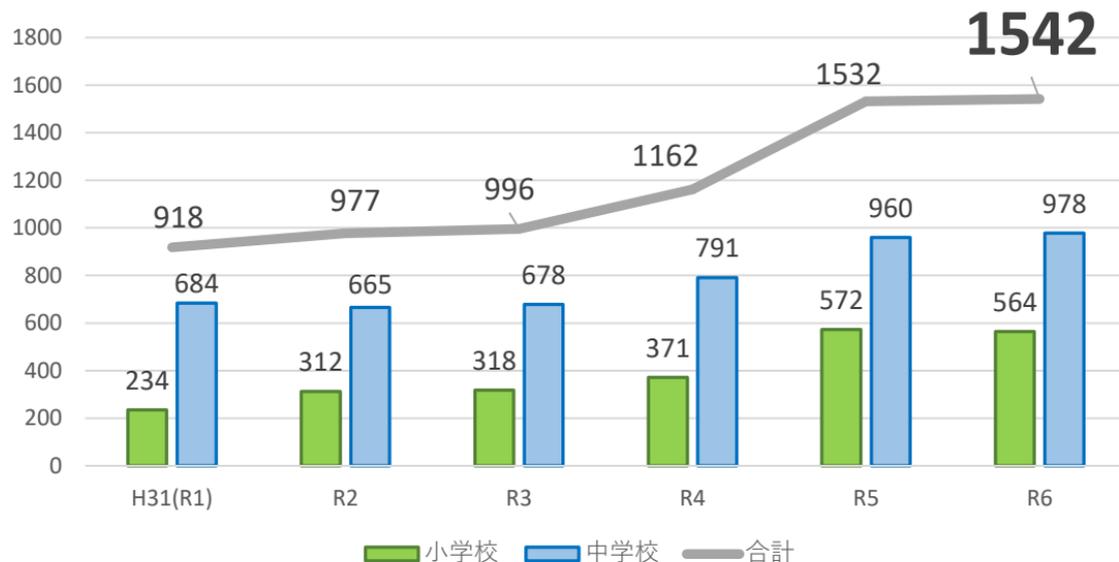
足立区の不登校支援 2つの柱

- 1 不登校の児童生徒の多様な学びの保障
- 2 不登校の未然防止・早期対応

現状

足立区の不登校児童・生徒数は高位で推移しています。

不登校児童・生徒数の推移



令和6年度は速報値

令和6年度は令和5年度からほぼ横ばいとなりました。

不登校児童・生徒数は、依然高いまま推移しています。

<参考：R6児童・生徒数>

小学校 29,127人

中学校 13,422人

合計 42,549人

- 1 不登校の児童生徒の多様な学びの保障
- 2 不登校の未然防止・早期対応

重点プロジェクト事業の
最終成果

不登校の児童・生徒が、様々な学びの場での体験や経験を通じて、
心身ともに成長する

1

現状の把握

不登校であっても学びの機会が確保されていない児童・生徒は全体の約半数いると分析しています。

2

達成に向けた方針

不登校児童・生徒の個々の事情や能力に合わせた学びの機会を整えるとともに、教育相談員やスクールソーシャルワーカー（SSW）による繋ぎを強化する必要があります。

3

具体的アクション

居場所等の不登校支援事業についてより利用しやすい環境を整えるとともに、相談体制の充実を図ります。

昨年度のご提言を踏まえ、令和6年度に以下の取組みを実施しました。

不登校の背景にある課題を踏まえた他事業との連携・協働を

▶令和7年度中に全小・中学校の児童・生徒・保護者を対象にアンケートを実施予定です。

▶アンケート実施に向け、教育支援センター（チャレンジ学級・あすテップ）を利用する児童・生徒にプレ調査を実施しました

学校や学校以外の支援者との連携を

▶学びの多様化学校・東京みらい中と連携した事業を実施しました

▶フリースクール実態調査を行いました

▶不登校支援連絡会を実施しフリースクール等7団体と意見交換しました

新たな取組みを行う際は課題に対する丁寧な分析を

▶東京都VLP（バーチャルラーニングプラットフォーム）事業

[効果]

バーチャル空間で家族以外の他者とコミュニケーションをとることができた

[課題]

利用者数が定員に満たず、さらなる改善が必要

1

校内委員会への支援

欠席が増えてきた児童・生徒について、各小中学校の「校内委員会」で支援方法を検討します。

活動1
直接成果1

スクールカウンセラー



各学校に週2日以上常駐し、児童・生徒や保護者の様々な悩み、心配事についてカウンセリングを行います。

スクールソーシャルワーカー



不登校をはじめ、児童・生徒や保護者の抱える課題について、学校や関係機関と連携して一緒に解決策を考えて支援します。



校内委員会

【直接成果-1】

校内委員会において支援方法等を協議した結果、
学習機会が確保された児童・生徒数

R6実績

662名 (R5比▲5名)

2

各小中学校に「登校サポーター」を派遣し 不登校の未然防止を支援しています

活動2
直接成果2

SSR（スモールステップルーム）



中学校では教室にいられない生徒がいつでも利用できるようにSSRを開設し、指導員が常駐して支援にあたっています。

◆R6実績：50名

お迎え支援



登校サポーターが児童・生徒宅へ迎えに行き、一緒に学校へ登校することで、登校の定着を図ります。

◆R6実績：65名

別室登校支援



登校サポーターが小中学校の別室を利用する児童・生徒の見守りや学習の手助けをします。

◆R6実績：470名

【直接成果-2】

お迎え支援、別室登校支援の利用者数

R6実績

532名 (R5比+135名)

3 学校以外の多様な学びの場・居場所につなげています①

活動3
直接成果3

あすテッ



- 〈教育支援センター〉
- ・区内中学校2校に設置
 - ・給食あり、制服着用

◆R6実績：13名（定員計40名）

チャレンジ学級



- 〈教育支援センター〉
- ・区内3か所に設置
 - ・集団の中で学習や各種活動

◆R6実績：110名（定員計120名）

居場所を兼ねた学習支援事業



- 〈NPO法人委託〉
- ・区内4か所で実施
 - ・学習にこだわらず、楽しみながら他者と触れ合う機会

◆R6実績：58名（定員計70名）

学習活動重視(学校に近い環境)

居場所機能重視(集団生活に慣れる)

3 学校以外の多様な学びの場・居場所につなげています②

活動3
直接成果3

外出が困難な場合は以下の支援につなげています

家庭学習支援事業



- ・長期不登校の児童・生徒
- ・家庭への講師派遣による個別学習支援

◆R6実績：49名（定員50名）

V L P 【NEW】



- ・東京都の事業を活用
- ・仮想空間を外出困難な児童・生徒がアバターで利用
- ・学習支援や相談対応

◆R6実績：22名（定員40名）

オンライン教育支援センター “room-K”



- ・NPO法人カタリバが開発・提供
- ・オンラインの教室に参加し、授業や交流

◆R6実績：4名

より多くの不登校の児童・生徒を支援につなげる必要があります

中間成果 1

不登校状態が改善した児童・生徒の割合

	R4	R5	R6
目標	55%	62%	51%
実績	52%	41%	24%
達成率	95%	66%	47%

遅れている

最終成果

出席扱いとなった不登校児童・生徒の割合

	R6
目標	53%
実績	53%
達成率	100%

達成

中間成果 2

学習機会が確保されている児童・生徒の割合

	R4	R5	R6
目標	83%	90%	94%
実績	74%	83%	47%
達成率	89%	92%	50%

やや遅れている

1 不登校または不登校傾向の児童・生徒に「届く」支援の検討

- ✓ 未然防止の取組みを強化しているものの、不登校児童・生徒は高位で推移しています。
- ✓ 令和6年度の不登校児童・生徒数1542人に対し、約半数は学びの機会が確保されていません。

対策 令和7年度中に、全児童・生徒・保護者へのアンケートを実施し、不登校の背景にある要因を分析し、有効な支援策につなげます。

2 S S R・別室登校支援のさらなる拡充

- ✓ S S R・別室登校を利用する児童・生徒は増加傾向にあります。

対策 令和6年12月、学校あたりの登校サポーターの派遣時間を拡大（週最大9H→15H）
S S Rの普及に伴い、登校サポーターのさらなる確保に努めます。

3 区と学校・学校以外の支援者の効果的な連携の継続

- ✓ 学びの多様化学校やフリースクール等と区（小中学校）との連携は緒についたところではあります。

対策 児童・生徒、保護者のニーズを把握し、一人でも多くの子どもを多様な学びの場につなぐため、「不登校支援連絡会」等の機会をとおして支援の場の実態を捉え、必要な施策を検討します。

短期



児童・生徒、保護者対象のアンケートを実施



不登校支援の各事業を「不登校支援ポータルサイト」で紹介 (▶)



ニーズに合った各事業の拡大・見直し

中・長期



未然防止の強化

- ・ S S R の拡大 令和7年度現在10校 → 令和9年度に全中学校（35校）の設置を目標
- ・ スクールソーシャルワーカーの活動強化：計画的な増員、人材育成



学びたいときに学べる環境づくりのさらなる推進



足立区の不登校支援について案内するサイトを区ホームページ内に開設。区の事業や関係機関等を紹介しています。

ご清聴ありがとうございました

☺ 若者の夢や希望する進路の実現を後押し。

No.5 若年者全力応援事業

区民評価委員会ヒアリング資料

あだち未来創造室 子どもの貧困対策・若年者支援課



子ども・若者 待ったなしの少子化対策～若者の自立促進を目指して

	産前・産後期	就学前期	小学生期	中学生期	高校生・大学生期
学び		あだち絵本シアター		AIDリル(小学3年生～中学3年生)	
		【幼稚園】 特色ある教育づくり事業	MIM	そだち指導	中1夏季勉強合宿 英語チャレンジ講座 英語マスター講座
関わり		【保育園】 読書 運動あそび 幼保小接続期カリキュラム			足立はばたき塾
		一時保育		登校サポーター・別室登校	
	ASMAP事業	病児・病後児保育		チャレンジ学級	
		あだちマイ保育園		家庭学習支援	あすテップ
		子育てサロン		教育相談	
		子ども食堂など居場所支援事業		特別支援教室	
暮らしの支援		幼稚園保育料補助		居場所を兼ねた学習支援	
		3歳以上の保育園等保育料無償化 ※ 0～2歳児非課税世帯を含む		就学援助	
		保育園給食費無償化	小・中学校給食物価高騰・食材費支援		

R4.1
設置

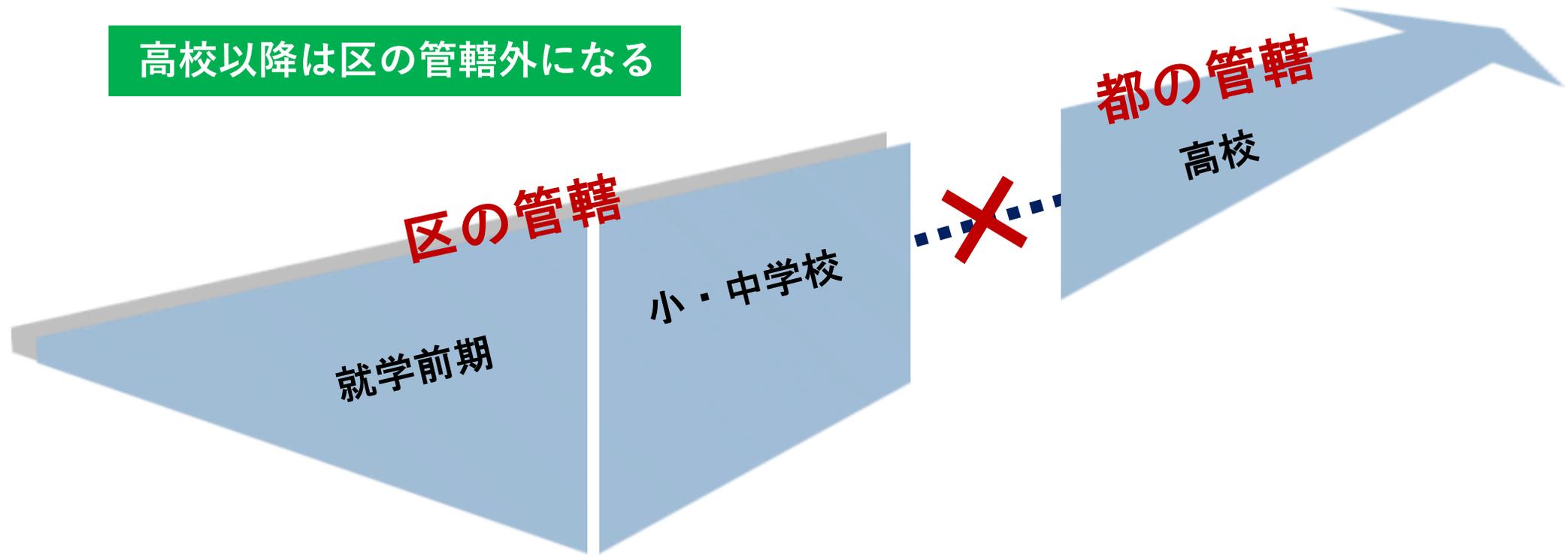
若年者支援協議会

令和4年度時点で
高校生・大学生期
の区の支援が
ほとんどない
状況だった…

貸付型育英資金
※ 新規募集は終了

※ 表は、「子ども」「若者」に関する主な事業を抜粋したイメージです

途切れていた区の若年者支援



中学生までで区の支援が途切れてしまう

切れ目のない支援を目指す

足立区が抱える若年者の課題

23区の中では突出

高校中途退学者数

193人 平成29年度

区内高校の大学等進学率

52.3% 令和5年3月



1 高校中退や大学への進学断念により経済的・社会的自立が困難に

2 低所得により貧困の連鎖を断ち切ることができない

これらを放置すると
結婚・出産を
あきらめてしまう
ことにもつながる

23区全体
73.3%

高校生・大学生であっても

あだちの子どもは足立区が支援する

令和3年4月 若年者支援の専管組織

「子どもの貧困対策・若年者支援課」設立



①②の課題解決に
向けた支援を
次のスライドから
紹介していきます！

若年者支援協議会を設置

「中途退学予防の強化」「中途退学後の支援」を目的に、
高校やYSW[※]、NPO団体、区の関係機関などが連携し、
一人ひとりの若者の状況に応じた支援を検討する協議会

52回

高校・NPO・YSW
などと開催した
分科会の回数



学校の授業についていけない…
中退者への支援がない…

補習・学び直しの支援が必要

※YSW（ユースソーシャルワーカー）とは

若者を取り巻く生活、家族等の様々な問題の解決と軽減をしつつ、若者が自立した社会人として成長していくための支援（福祉と教育を統合させた若者への支援）を行っている

大学へ進学したいが費用がかかりすぎるため
進学を断念している生徒がいる

進学を実現するサポートが必要

無気力が原因で
夏休み明けの中退者が多い

メンタル面の悩みの相談場所が必要

高校生世代の居場所型学習支援



授業におくれがちな**高校生の補習**や高卒資格を取得したい**高校中退者の学び直し**を行う学習支援

開館時間 毎週月曜日 13時～20時（44日開館）

会場 梅島校（定員30名）・綾瀬校（定員20名）

事業者 認定NPOカタリバ・認定NPOキッズドア



特色POINT

① 個別指導を受けることができる

② 食事の提供があります

③ 自由に来て、読書や自習をして過ごせる

登録人数

26名

R5年度
未現在



35名

R6年度
未現在

26名が
進級・進学先等
を決定

豚骨ラーメンづくり

利用者発案の体験イベントを開催するなど
質の高い伴走支援により利用定着率も向上

利用者の声

- ・ 落ち着ける場所・家でも学校でもない第三の居場所となっている
- ・ 勉強ができてコミュニティを広げることができる場所・心のありどころ

足立ミライゼミ



成績上位であるものの家庭の事情などにより塾などに行けない高校生を対象に、3年間の受験勉強期間を通じて、**難関大学合格**を目指す無料学習塾



受講人数 3学年合わせて90人

会場 生涯学習センター（1年生・2年生）
こども支援センターげんき（3年生）

特色POINT

① 成績上位層の「突き抜け」支援

② AI学習ツールを用いた個別学習と塾講師の個別指導のハイブリッド型

申込倍率

2.46倍

R5年度

1.62倍

R6年度

R7年度は

2.04倍

進級できた塾生の割合

84%

1年生の平均出席率
80% 高い出席率を維持

利用者
アンケート

① 学習意欲が向上 88% ② 学校の成績が向上 75%

- 分からなかったところが出来るようになってとても良かった
- 説明がとても丁寧
- 苦手科目が改善された



若者のメンタル面や生活全般の悩みなどの相談を精神科医・精神保健福祉士などの専門スタッフが窓口で相談に乗り、必要な支援につなげる

対象者 概ね15歳～25歳前後の区内在住・在学・在勤者

場所 千住2-29-2（北千住駅から徒歩約3分）



特色POINT

① カフェのような落ち着いた雰囲気

② オンラインや訪問相談も実施

③ 医療機関などへの同行支援も実施

相談人数

288名

R5年度



374名

R6年度

延べ対応件数

4,172名

アウトリーチによる手厚い支援も増加 

訪問相談（自宅・他施設）99件【R5年度51件】

出張相談（学校）10件【R5年度1件】

192名が医療機関・NPO・就労先へつなぐ

利用者

アンケート

① 相談の満足度 99.2%

② 相談して解決に向かった人の割合 97.7%

情報発信回数

142回

SNS等を活用した情報発信 **117**回

Facebook、X、LINE 86回

チラシ・ポスター 4回

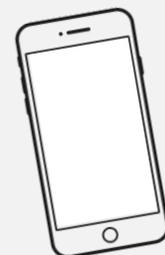
TV・本・新聞 9回
(朝日新聞・日経新聞など)

豆の木メール 3回

リリース 3回

ホームページ 6回

あだち広報 6回



SNSでの発信強化

3.3倍 **UP**



都立高校で生徒へ
通知する仕組みを
活用してお知らせを配信

訪問、講演会を通じて周知 **25**回

都立高校・私立高校・NPO団体
こども支援センターげんきなど 21回

講演会での周知 4回

生徒により
近い教員への
アプローチを

強化



若年者支援の次なる展開 ①



若者から直接意見を聴取し、区政への反映を目指す「アダチ若者会議」を開始し、多様な声を集めました。

令和6年度テーマ 夢の実現に「私たちにはこれが必要だ！」



夢を見つける手助けをしてほしい

その道のプロや働いている人の生の声を聴く機会がほしい

職場体験がしたい

多世代交流の機会



資格の取得支援

留学費用の支援



学費の支援

大学進学後の
パソコン購入費の支援

etc



若者の声を実現するために、
令和7年度から新たに2つの事業を展開！

「やりたい・やってみたい」といった若者の想いと区政への参画機会を創出

① 部活動・習い事・資格取得などの
チャレンジへ5万円を支給

夢や目標を実現したい高校生向け
高校生世代応援支援金

募集人数 600名



② 社会人になると経験する企画立案・
企業訪問・事業運営などを体験

夢・やりたいこと発見プロジェクト
モギ社会人1年目

若者×官民協働で実施予定



足立区で活躍する若者をSNS等で紹介する際に
上記を含めた若年者支援事業の情報発信にも
新たに取り組んでいく！



今後困難なことがやっても夢や希望の実現
に向かって、チャレンジしてみようと思う

85%



☺ 若者の自立を全力で応援する。

END

「働きたい…」 「学びたい…」
「この悩みは誰に相談したらいいんだろう…」
若者が抱える悩みの相談窓口や支援先などを
紹介しています

働きたい・学びたい・チャレンジしたい

若者サポート in Adachi

ポータルサイト

YOUTH SUPPORT

wakamono no mirai wo mamoru



HPは
コチラ



No.8 就学前教育・保育施設の質の維持・向上



目的

子どもたちが区内のどの就学前教育・保育施設に通っていても安全・安心な保育サービスが受けられる。

目標を達成するためには・・・

● 指導検査・巡回訪問の計画的な実施

○ 保育士定着率の向上

写真

指導検査・巡回訪問の必要性

待機児童対策

令和5年度重点プロジェクト事業

社会福祉法人や株式会社等多様な運営主体が参入
(幼稚園・認定こども園・認可保育所・小規模保育事業所・家庭的保育事業者 等)

メリット

- 運営主体の特色ある教育・保育が可能
- 保護者がニーズに合わせて選択できる

デメリット

- 施設等により保育の質に 差異や偏りがやすい

教育・保育の質の維持・向上

令和6年度以降重点プロジェクト事業

(保育については
「足立区教育・保育の質ガイドラインの実践」)

巡回訪問

指導検査



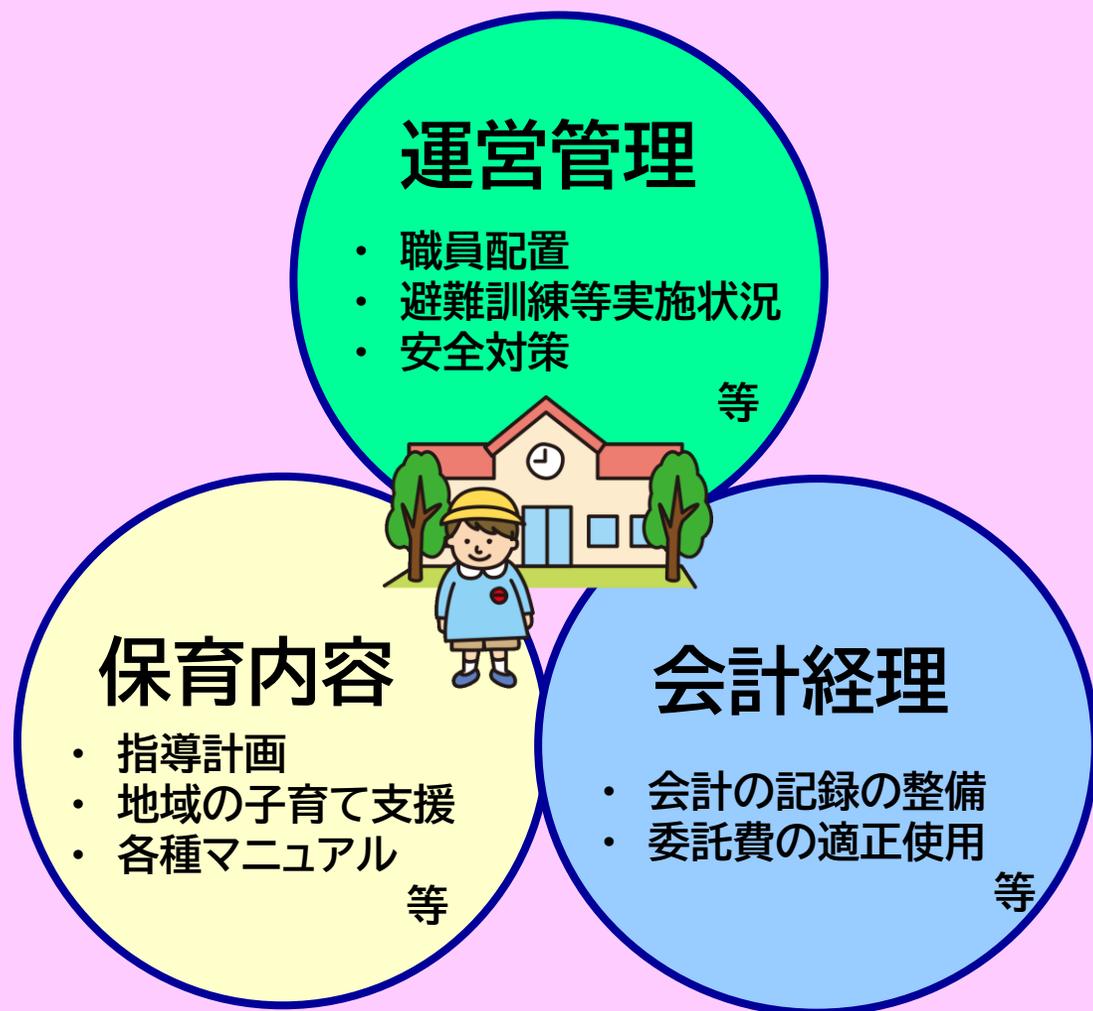
指導検査や巡回訪問を通して、
私たちが一緒に考えます。



活動指標－1 指導検査

法に基づき、各教育・保育施設の運営状況等を確認する。

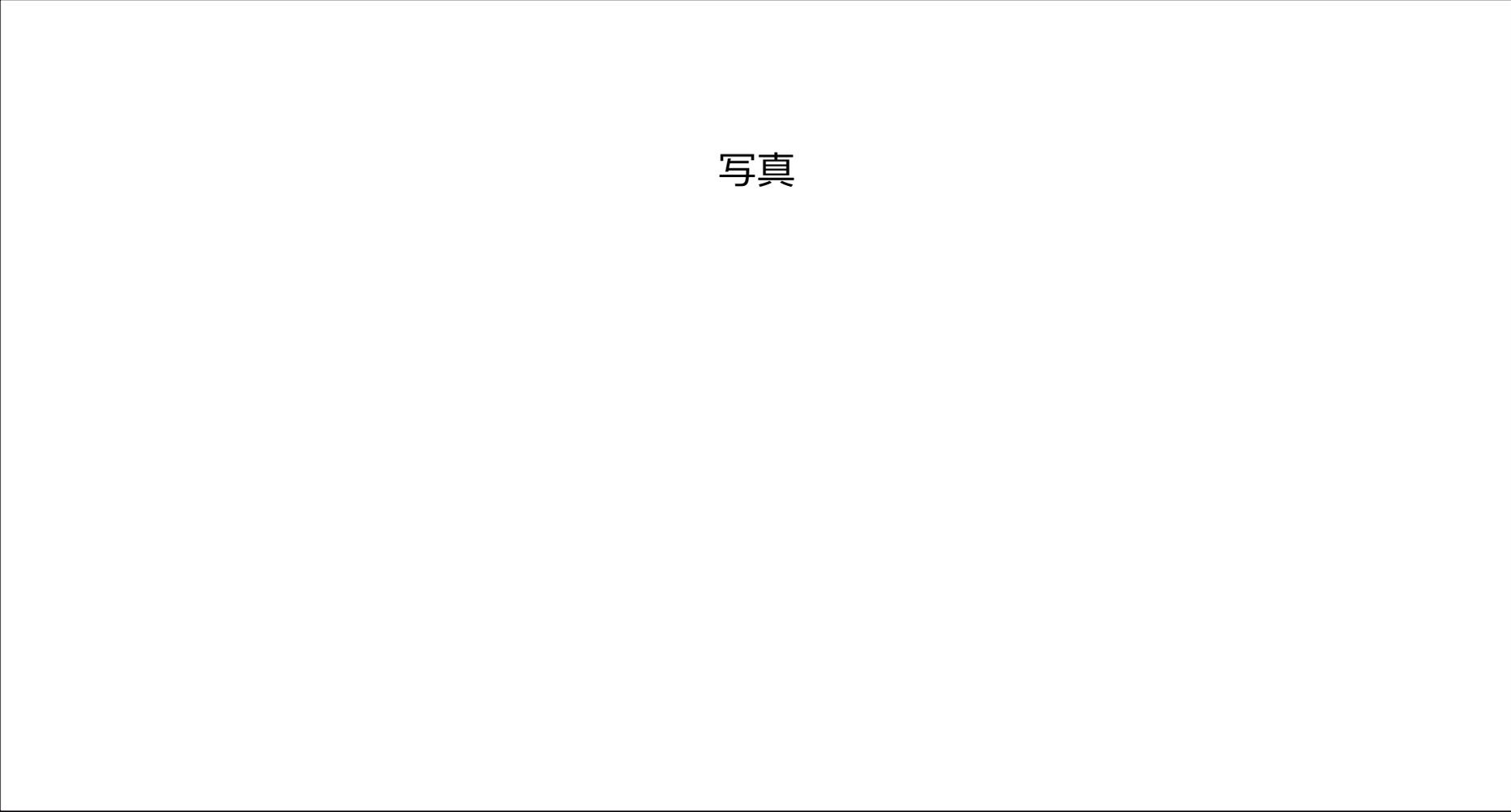
《令和6年度指導検査実施状況》



施設種別	対象施設数	検査実施施設数
私立認可保育所	113	58
小規模保育事業所	26	14
家庭的保育事業者	93	44
認可外保育所	4	2
私立幼稚園・認定こども園 (支援法移行)	22	8
私立幼稚園・認定こども園 (支援法未移行)	27	26
認証保育所	33	16
合計	318	168

足立区ホームページ保育施設等の指導検査について➡





写真

※ 写真はイメージです

活動指標－1 指導検査後の改善事例

運営管理

【指導検査前】避難訓練を毎月実施していなかった。

【指導検査後】訓練記録を提出してもらい、毎月実施していることを確認した。

保育内容

【指導検査前】睡眠時事故防止対策が徹底できていなかった

【指導検査後】睡眠時チェック表の写しの提出を受け、仰向けの徹底を確認した。

【指導検査後】睡眠時の事故防止について職員と再確認を行った会議録の写しの提出を受け、事故防止についての周知が行われていることを確認した。

会計経理

【指導検査前】利用者から費用を徴収する際、金額をあらかじめ説明していなかった。

【指導検査後】「園だより」等を活用し、利用者へ金額をお知らせする工夫を行った。

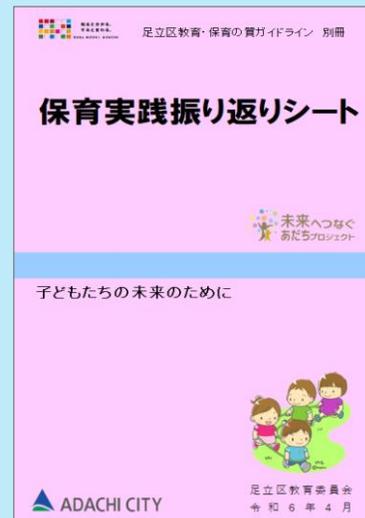
活動指標－2 巡回訪問

教育・保育施設の職員

巡回訪問員



施設長・主任・看護師・栄養士



- 保育の質の維持・向上のための施設等への寄り添い支援
- 「足立教育・保育の質ガイドライン」の活用促進

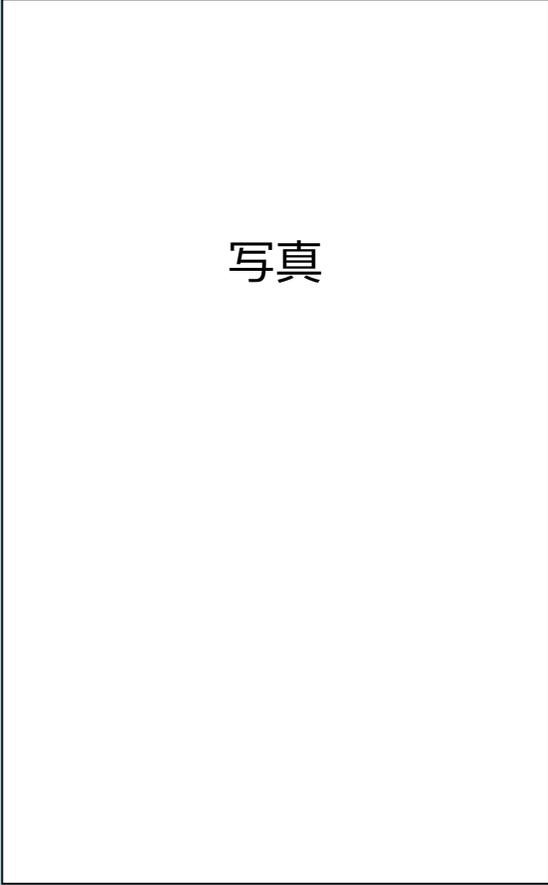


保育士
保育環境・子どもの関わり・保護者対応等について助言

看護師
健康・安全・衛生管理等について助言

栄養士
給食の衛生管理・食育等について助言

活動指標－2 巡回訪問の様子



写真



写真



写真

※ 写真はイメージです

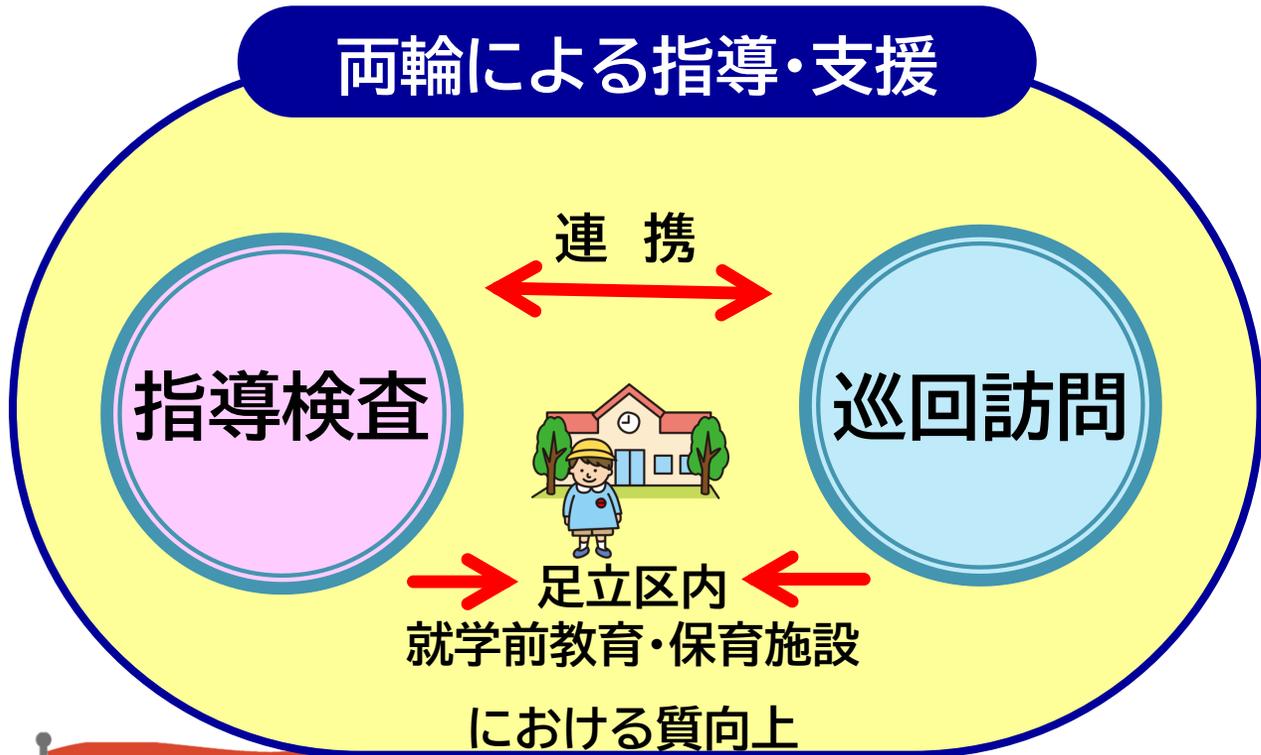
「足立区教育・保育の質ガイドライン」の活用事例

活用前の姿	アドバイス内容	活用後の姿
職員が子どもを愛称で呼んでいた。	保育の質ガイドライン（P 9）・実践振り返りシートP 4～6）を参照し、職員と保育の振り返りを行う。	子どもの名前を正しく呼ぶことの大切さを確認するとともに、正しく名前を呼ぶようになった。
着任1年目の園長が職員の育成に悩んでいた。	保育の質ガイドライン・実践振り返りシートの具体的な活用方法を伝えた。	保育の振り返りを行うことにより、園長と職員のコミュニケーションをとる機会と、保育の話合いが深まった。
食事の際の一口の量が多く誤嚥につながりそうであった。	実際の食事場面において、保育の質ガイドライン（P 41）の内容を伝え、適切な子どもの一口量を共有し実践を促した。	食事の際の一口の量を調整するようになった。

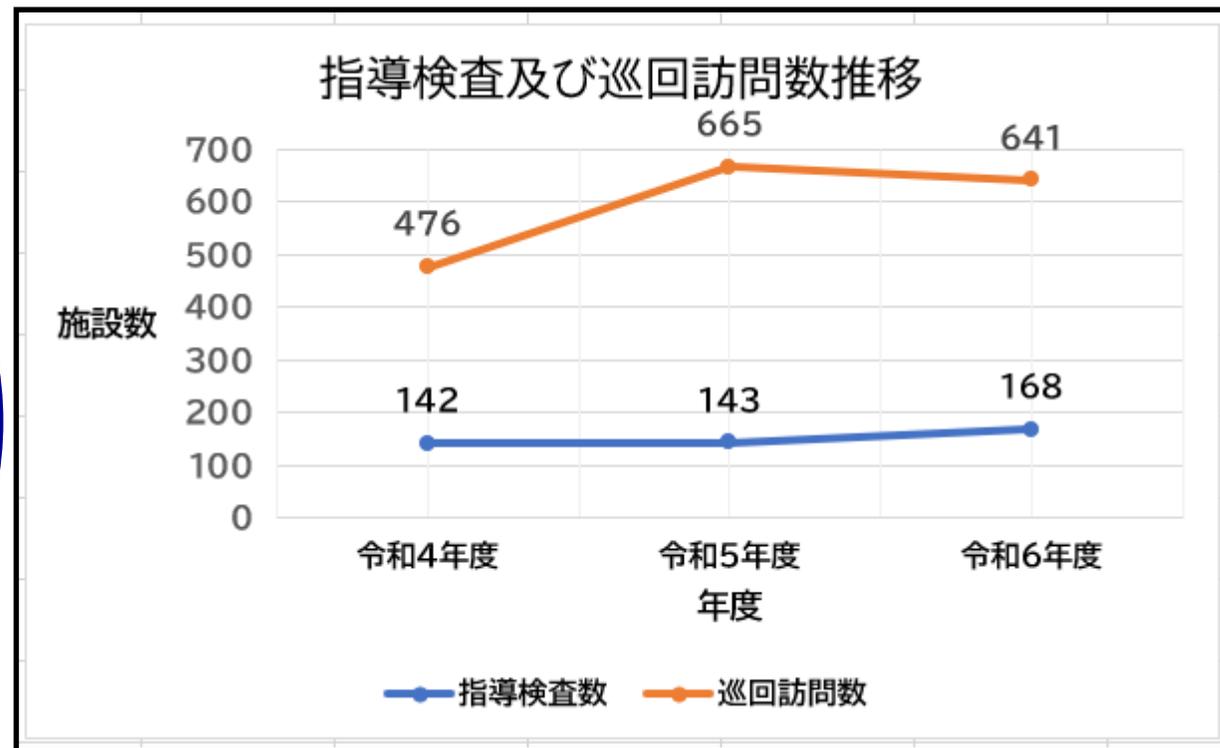


指導検査と巡回訪問での両輪支援

両輪による指導・支援



質の向上



両輪が上手く回って
安全・安心

指導検査
9

巡回訪問

No.8 就学前教育・保育施設の質の維持・向上



目的

子どもたちが区内のどの就学前教育・保育施設に通っていても安全・安心な保育サービスが受けられる。

目標を達成するためには……

- 指導検査・巡回訪問の計画的な実施
- 保育士定着率の向上

奨学金の返済を軽減

保育士奨学金返済支援事業補助金

返済費用を10万円まで補助
5年以上勤続した場合
15万円までUP

家賃の負担を軽減

保育士等住居借上げ支援事業補助金

事業者の借り上げ費用
月8.2万円まで
7/8補助

令和6年度～
「補助者」等まで
対象拡大

長く勤めた方への感謝

保育士・家庭的保育者永年勤続褒賞

保育士・**保育補助者等**
5年・10年
家庭的保育者・**家庭保育補助者**
10年・20年



活動指標－3 保育士確保・定着対策

保育のお仕事就職面接・相談会（ハローワーク足立と共催）

写真

活動指標－3 保育士確保・定着対策

保育のお仕事就職面接・相談会（ハローワーク足立と共催）

写真

足立区特集ページ（R6.8～）

こちらからご覧いただけます👉



活動指標－3 保育士確保・定着対策の実施状況

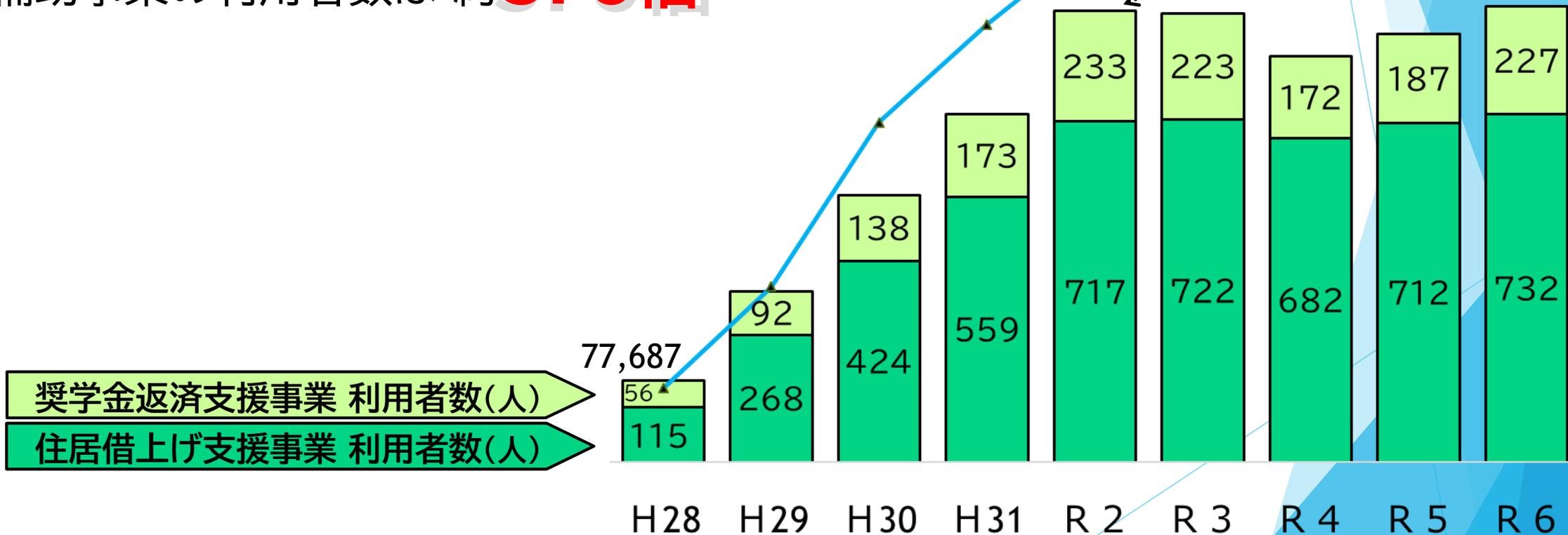
9年間(H28～R6)で

事業費総額は 約8.7倍に増加

補助事業の利用者数は 約**5.6倍**

事業費総額(千円)

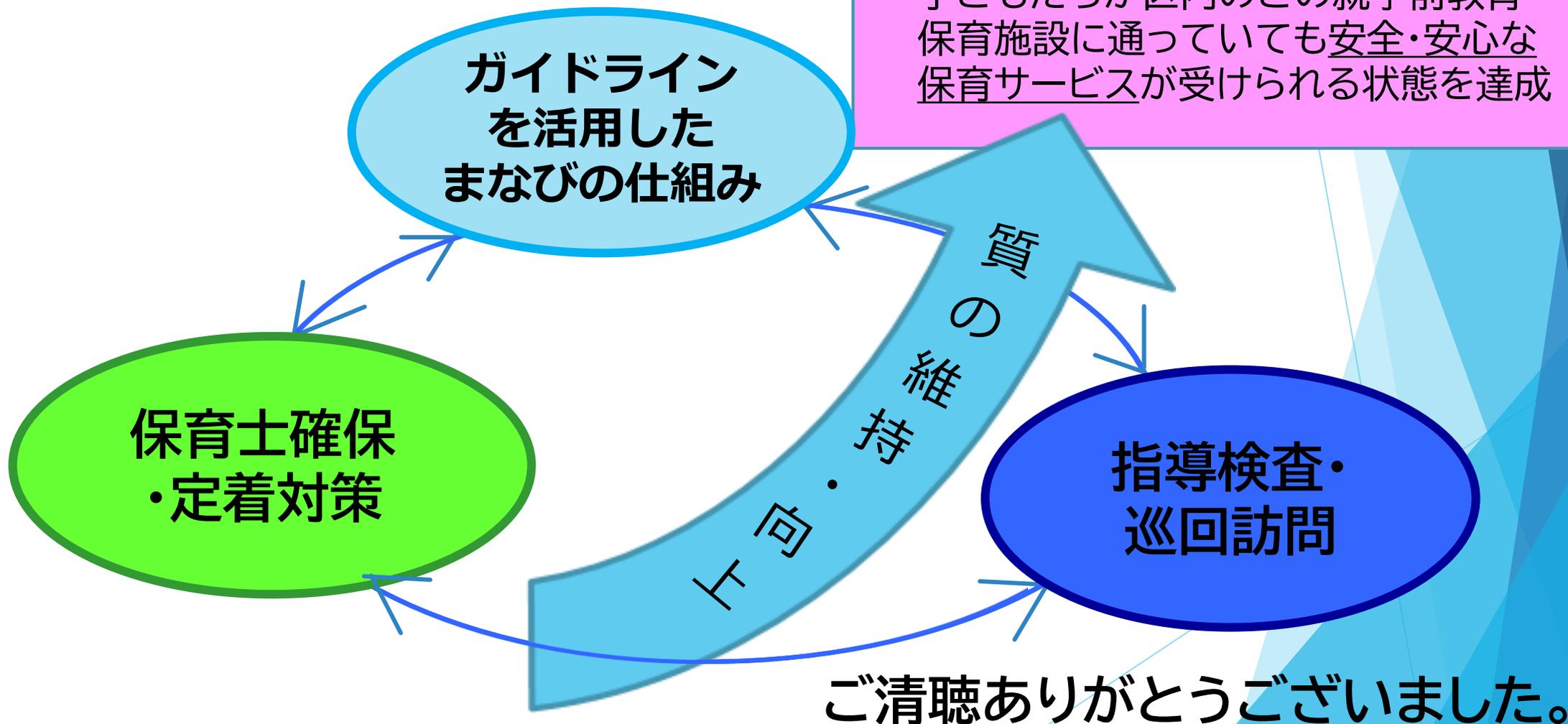
待機児ほぼ解消



No.8 就学前教育・保育施設の質の維持・向上

目的

子どもたちが区内のどの就学前教育・保育施設に通っていても安全・安心な保育サービスが受けられる状態を達成



No.9 学童保育室の
質の維持・向上
～学童保育課～

事業目的

学童とは？

保護者の就労等により日中ご家庭に保護者がいない場合に、放課後に児童を預かる事業

写真

写真

区内 114施設 129室
(R7.4.1時点)

事業目的

現状の課題

- ①学童利用者及び学童に対するニーズの多様化
- ②働き方の変化による学童需要の増加に伴う、待機児童の増加



事業目的

- ①学童保育室の質の維持・向上
- ②学童保育室の整備(待機児対策)

質・量 2つの側面から取り組んでいきます！

2つの目標

1 学童保育室の質の維持・向上

2 学童保育室の整備（待機児対策）

1 保育の質の維持・向上に向けた取り組み

令和6年度の取り組み

活動指標①

学童職員の自己評価(年2回)

活動指標②

区職員による実地調査

活動指標③

学童職員向け研修(年11回)



1 保育の質の維持・向上に向けた取り組み

活動指標①
直接成果①

■自己評価(1回目)/保護者アンケート(1回目)
の結果について、学童保育室で話し合う

課題や改善点が浮かび上がる



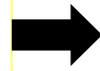
改善計画に反映



改善に向けて取り組む



改善



保育の質の向上へ



改善に向けて
区職員が
実地調査・巡回訪問で
支援しています

1 保育の質の維持・向上に向けた取り組み

保護者アンケートの声

子どもが
「学童楽しい！」
と言っています。



学童のおかげで、
保護者としても
安心して仕事に
行けます。

施設(トイレ)が古いので、
新しくしてほしいです。

保育園にあるような、アプリ
の連絡ツールがあると嬉しい
です。

1 保育の質の維持・向上に向けた取り組み

活動指標②
直接成果②

実地調査→事業改善計画書作成

区独自

実地調査の視点

- 1 施設管理
(施設の清潔さ・安全性の確保)
- 2 安全対策・事故防止
(登降室・保育中・防犯・防災・個人情報)
- 3 育成支援
(日常・遊び・おやつ・子どもへの対応)
- 4 情報共有・保護者との連携
(家庭・地域・運営主体)

実地調査の翌年の巡回訪問では、
改善計画の内容を中心に確認します。



1 保育の質の維持・向上に向けた取り組み

活動指標③

専門的な研修の実施

工作やゲームなど
遊びの研修

テーマごとに
意見交換をする
実践交流
研修

保育観察
研修

発達支援児
対応研修

看護師や栄養士によ
る専門的な研修



学童職員一人一人のスキルアップ



保育の質の向上へ

1 保育の質の維持・向上に向けた取り組み

中間成果①

■自己評価(2回目)

全ての学童保育室の
自己評価結果が向上

達成率
122%

最終成果

■保護者アンケート(2回目)

保護者満足度
95.5%

目標達成!



2つの目標

1 学童保育室の質の維持・向上

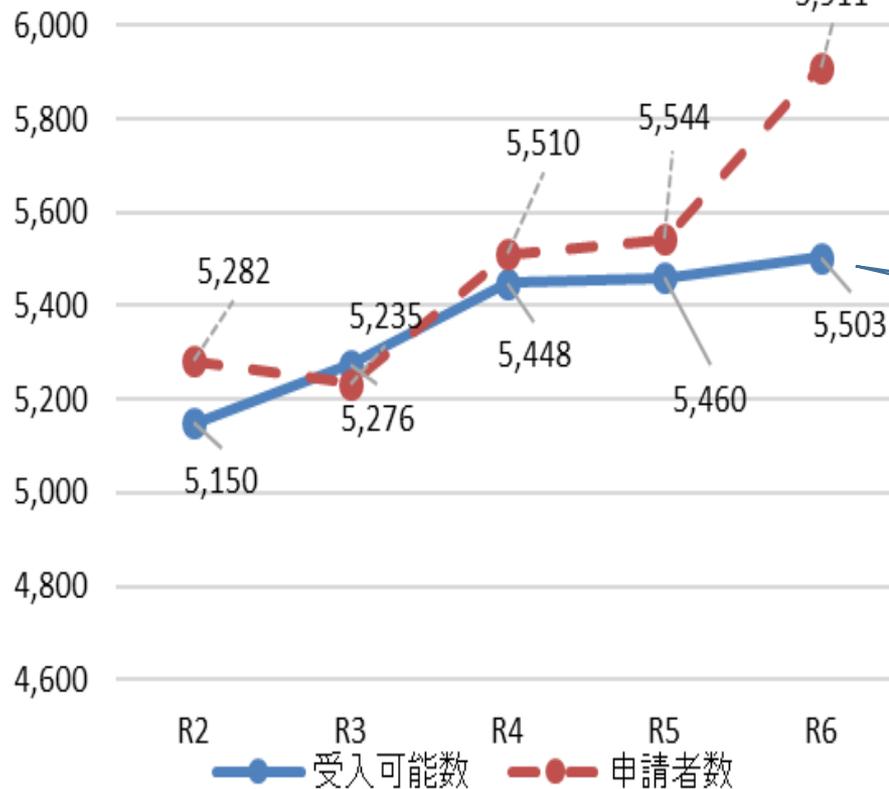
2 学童保育室の整備（待機児対策）

2 学童保育室の整備(待機児対策)に向けた取り組み

令和5年度の取り組み

直接成果④

受入可能数と申請者数の推移



【令和5年度】
学童保育室をわずか1室
しか整備することができ
ず…。



受入可能数の増分がわず
か40人分に留まりました。

2 学童保育室の整備(待機児対策)に向けた取り組み



足立区の取り組み

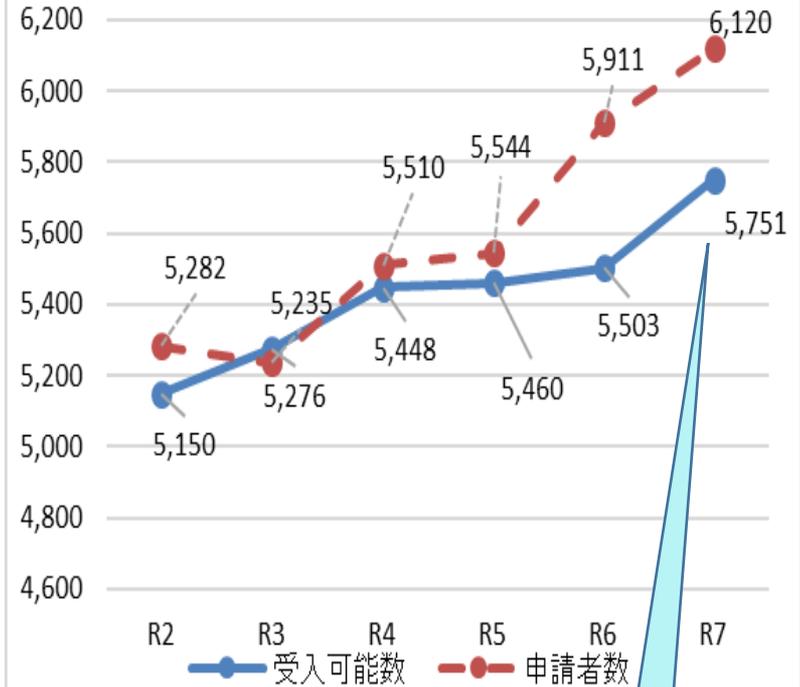
- ①小学校内学童保育室の設置
- ②民設学童保育室の誘致

令和6年度の取り組み

活動指標④

- 1 民設学童保育室誘致
12地域14室→4地域4室
- 2 校内学童保育室の整備 5校
 - ①受入人数の拡大 3校
(綾瀬小・江北小・千寿小)
 - ②学童保育室の新設 2校3室
(栗島小・古千谷小)

受入可能数と申請者数の推移



**受入可能数
248人分増！！**

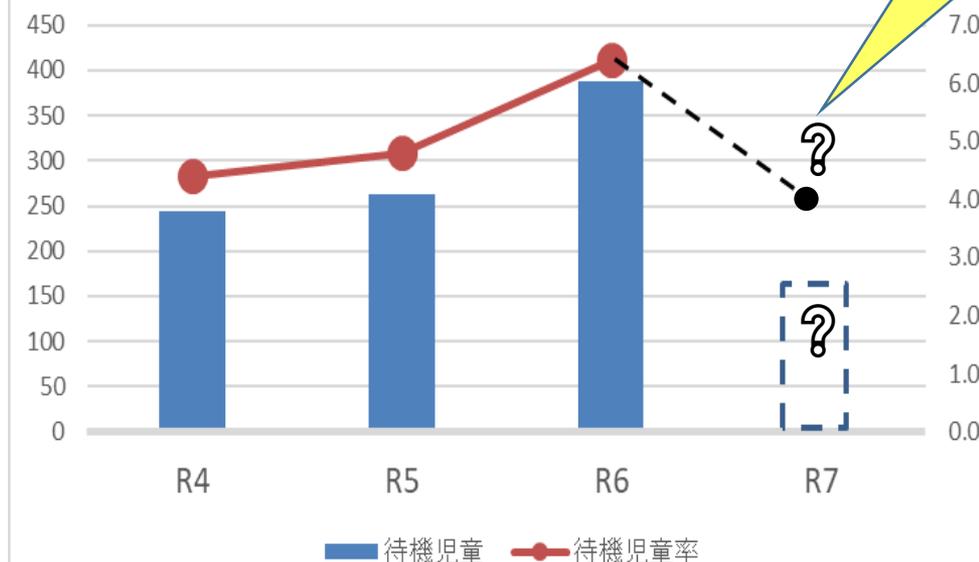
2 学童保育室の整備(待機児対策)に向けた取り組み

取り組み成果

待機児童数の減少
R6:388人

最終成果

待機児童数と待機児童率



大幅減少なるか!?

取り組みの方向性

1 学童保育室の整備により入室者数が増加する。



2 待機児童率が減少する。

※ まず重点的に取り組むべき1、2年生の待機児童率の解消を目指し、全学年の待機児童率の解消につなげていく。

2 学童保育室の整備(待機児対策)に向けた取り組み

今後の整備方針

■ 校内学童保育室の拡充

- ①利用者の需要が多い校内学童保育室を最優先
- ②小学校への直接的な働きかけ



R7年度

34校／67校



R10年度

40校／67校

■ 民設学童保育室の誘致

- ①公募方法の見直し
- ②運営事業者への支援の拡充



民間事業者の新規参入促進



「保育室の質の向上」と 「待機児の解消」により

こどもにとっても
保護者にとっても

安全、安心な居場所
を確保していきます

